

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

教育学部、外国語学部、経済情報学部、看護学部では、プログラムを構成する授業科目である教養基礎科目「数学(データサイエンス入門)」2単位を修得することを修了要件とします。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
<span style="color: red;">数学(データサイエンス入門)</span>	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
<span style="color: red;">数学(データサイエンス入門)</span>	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
数学(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
数学(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
数学(データサイエンス入門)	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	第2回の講義テーマ「現代社会におけるデータサイエンス」の中で、第1回の講義テーマ「データサイエンスの重要性」の中で、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等)を知り、その背景と歴史を学ぶ。
	1-6	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」 「公共交通・モビリティ分野で利活用されているデータサイエンスやAI」の中で、自動運転技術やビッグデータの活用事例を通して、また、第2回の講義テーマ「AI/DSを身近な例から学ぶ」の中でSNSやスポーツ、コロナ感染症などの医療現場での活用事例を学び、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について理解する。
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、データ分析のためのデータの取得・管理方法について解説し、演習を通してe-StatやRESASからのデータの取得の仕方や加工方法について学ぶ。 第4回の講義テーマ「DS/AIを利活用したグローバルな取り組み」の中で、地方自治体が高齢化や過疎化の問題にデジタル化を用いて新たな価値創造を行う取り組みについて学び、日常生活でのデータの利活用や社会の問題を解決するためのデータの使い方について理解する。
	1-3	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、マーケティングやサービスにおけるデータの利活用の例を紹介し、チャットボット等を体験させながら、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。 第5回の講義テーマ「DS/AIを利活用したビジネスモデル」の中で、流通サービスや送迎サービスにおけるデータの利活用の例を紹介し、データ科学が社会課題の解決策の核となることを学習する。

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	第5回、第6回の講義テーマ「データサイエンスの手法1」、「データサイエンスの手法2」の中で、データ分析の単回帰分析、ベイズ推論及び散布図などのデータの可視化について学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いや疑似相関について触れ、データ分析で注意すべき点について学ぶ。人工知能(AI)については汎用型AIと特化型AIの違いについて学ぶ。
	1-5	第9回、第10回の講義テーマ「機械学習の方法」、「機械学習における様々なデータ」の中で、機械学習の目的ごとの種類や社会での課題、解決方法などを理解し、データの特性に応じた各種機械学習の方法について学習する。 第7回の講義テーマ「データサイエンスの手法3」の中で、単回帰分析の応用事例として需要予測を紹介し、マーケティングへの活用について学ぶ。 第11回の講義テーマ「データの特性(平均・分散)」の中で、データの基本的な特性を理解するとともに、所得データを事例にデータ活用の方法を学ぶ。
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	第4回の講義テーマ「データ利活用における留意事項」の中で、GDBRが定める主要な権利やELSIにも触れ、データ活用の負の側面について理解する。 第8回の講義テーマ「データの公正な取り扱い」の中で、誇大表現による誤解、個人情報の取り扱い、著作権問題とブロックチェーンの概要などについて理解する。
	3-2	第13回の講義テーマ「データ分析で注意すべき点」の中で、情報セキュリティについて、リスクの話を変えながら解説し、機密性、完全性、可用性について学び、情報漏えいなどによるセキュリティ事故の事例を紹介するとともに、セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。 第13回の講義テーマ「データの可視化」において、可視化の重要性と正しい可視化の方法、表現方法の公正さを実習を交えて理解する。
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	第6回の講義テーマ「統計グラフ(ヒストグラム、箱ひげ図)」の中で、データの種類、データの代表値と散布度、相関について学ぶ。 第14回の講義テーマ「データの集計・解析」の中で、分類と回帰、最小二乗法などのデータ解析手法について学び、演習を通して実際にデータの集計と分析を行う技術を習得する。
	2-2	第8回、第10回、第12回の講義テーマ「Excelによる代表値、散布度、5数要素の求め方」、「Excelによる統計グラフの作成方法」、「Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方」の中で、表計算ソフトExcelを使い、代表値や散布度、相関係数の求め方、散布図やヒストグラム、箱ひげ図のグラフ作成の演習を通して学びを深める。 第11回の講義テーマ「データの特性(平均・分散)」の中で、データの持つ基本的な統計的性質について理解し、演習を通して実データから要約統計量を抽出する手法を習得する。
	2-3	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、公的統計を利用し、データをダウンロードし、Excelを利用して普通出生率や合計特殊出生率などを求めることで、データの加工や統計指標の示す意味を理解する。 第12回の講義テーマ「データの特性(相関・標本・集計)」の中で、データ間の相関と因果関係の違いについて学び、実際のデータを用いた演習、正しくデータの読み方を学習し、データを説明する能力を身に付ける。

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/ai.php>

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

経済情報学部では、プログラムを構成する授業科目である教養基礎科目「統計入門」2単位を修得することを修了要件とします。  
 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
統計入門データサイエンス入門	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
統計入門データサイエンス入門	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
統計入門データサイエンス入門	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
統計入門データサイエンス入門	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
統計入門データサイエンス入門	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	第2回の講義テーマ「現代社会におけるデータサイエンス」の中で、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等)を知り、その背景と歴史を学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	1-6	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について理解する。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、データ分析のためのデータの取得・管理方法について解説し、演習を通してe-StatやRESASからのデータの取得の仕方や加工方法について学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	1-3	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、マーケティングやサービスにおけるデータの利活用の例を紹介し、チャットボット等を体験させながら、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	第5回、第6回の講義テーマ「データサイエンスの手法1」、「データサイエンスの手法2」の中で、データ分析の単回帰分析、ベイズ推論及び散布図などのデータの可視化について学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いや疑似相関について触れ、データ分析で注意すべき点について学ぶ。人工知能(AI)については汎用型AIと特化型AIの違いについて学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	1-5	第7回の講義テーマ「データサイエンスの手法3」の中で、単回帰分析の応用事例として需要予測を紹介し、マーケティングへの活用について学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	第4回の講義テーマ「データ利活用における留意事項」の中で、GDPRが定める主要な権利やELSIにも触れ、データ活用の負の側面について理解する。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	3-2	第13回の講義テーマ「データ分析で注意すべき点」の中で、情報セキュリティについて、リスクの話を変えながら解説し、機密性、完全性、可用性について学び、情報漏えいなどによるセキュリティ事故の事例を紹介するとともに、セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	第6回の講義テーマ「統計グラフ(ヒストグラム、箱ひげ図)」の中で、データの種類、データの代表値と散布度、相関について学ぶ。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	2-2	第8回、第10回、第12回の講義テーマ「Excelによる代表値、散布度、5数要素の求め方」、「Excelによる統計グラフの作成方法」、「Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方」の中で、表計算ソフトExcelを使い、代表値や散布度、相関係数の求め方、散布図やヒストグラム、箱ひげ図のグラフ作成の演習を通して学びを深める。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。
	2-3	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、公的統計を利用し、データをダウンロードし、Excelを利用して普通出生率や合計特殊出生率などを求めることで、データの加工や統計指標の示す意味を理解する。 ※2022(令和4)年度以降は、様式2-1の内容に統合する。

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/ai.php>



科目名	データサイエンス入門		担当教員	西澤 淳	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング
期待される学修成果	「基礎教養」「態度」				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	データサイエンスが社会でなぜ必要とされ、どのように利活用されているかを包括的に説明できるようになり、データの利活用について法的・倫理的・社会的観点から討論を行うことができる。日常の些細なできごとをデータサイエンスの目を通して客観的に評価し、論理的思考過程を習得する。				
授業の概要	現代社会のあらゆる分野で重要視されている、数理・データサイエンス、およびデータについての基礎的な事項について学ぶ。AIが社会実装されている実例をもとに、データサイエンスの是非や方法論についてグループディスカッションやPCでの実習など、アクティブラーニングを多用して習得する。原則として個人で所有するPCを持参すること。				

授業計画	
第1回	クラスの進め方、評価方法についてのガイダンス。データが支配する激動の社会を理解する。AI・データサイエンスを学ぶ意義とは
第2回	身近な事例から学ぶAI・データサイエンス
第3回	公共交通、モビリティ分野で利活用されているAI・データサイエンス
第4回	AI・データサイエンスを利活用したグローバルな取り組み
第5回	AI・データサイエンスを利活用したビジネスモデル
第6回	学術研究におけるデータサイエンス(経済学など人文社会学における応用)
第7回	学術研究におけるデータサイエンス(天文学など自然科学における応用)
第8回	データの公正な取り扱い
第9回	機械学習の方法
第10回	機械学習における様々なデータ
第11回	データの特性: 確率変数と分布関数、代表値、散布度
第12回	データの特性: 因果関係、相関、母集団と標本
第13回	データの可視化: 様々なグラフ、可視化の重要性、適切な可視化
第14回	データの集計・解析: 単回帰、最小二乗法
第15回	まとめと最終課題のプレゼンテーション

事前学修	2	各回の授業計画で挙げられたキーワードについて、インターネットを用いて検索を行い、事前に用語を調査しておくこと。そのうえで、不明瞭であると感じた語句や内容と、理解できたものとを明確に区別しておくこと。
事後学修	2	事前学習で不明瞭であった点が授業で解消できたかを確認し、出ていない場合はさらに受講生同士のコミュニケーションやインターネットによる検索等で解消すること。質問は授業時間中に直接担当教員に質問し、問題解消に至ることが望ましい。オフィスアワーの活用も推奨する。
フィードバックの方法	頻出の質問についてはQA掲示板等により回答を行う。	

成績評価方法	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	定期試験は実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	グループワークによる相互評価の総点による評価(50%)と、最終課題の相互評価(50%)を総合して評価する
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	「できる やさしく学ぶExcel統計入門」羽山博, できるシリーズ編集部 著, インプレス ISBN-13: 978-4844337317			

科目名	データサイエンス入門		担当教員	姜 興起	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	「基礎教養」「態度」				
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	データサイエンスが社会でなぜ必要とされ、どのように利活用されているかを包括的に説明できるようになり、データの利活用について法的・倫理的・社会的観点から討論を行うことができる。日常の些細なできごとをデータサイエンスの目を通して客観的に評価し、論理的思考過程を習得する。				
授業の概要	現代社会のあらゆる分野で重要視されている、数理・データサイエンス、およびデータについての基礎的な事項について学ぶ。AIが社会実装されている実例をもとに、データサイエンスの是非や方法論についてグループディスカッションやPCでの実習など、アクティブラーニングを多用して習得する。原則として個人で所有するPCを持参すること。				

授業計画	
第1回	クラスの進め方、評価方法についてのガイダンス。データが支配する激動の社会を理解する。AI・データサイエンスを学ぶ意義とは
第2回	身近な事例から学ぶAI・データサイエンス
第3回	公共交通、モビリティ分野で利活用されているAI・データサイエンス
第4回	AI・データサイエンスを利活用したグローバルな取り組み
第5回	AI・データサイエンスを利活用したビジネスモデル
第6回	学術研究におけるデータサイエンス（経済学など人文社会学における応用）
第7回	学術研究におけるデータサイエンス（天文学など自然科学における応用）
第8回	データの公正な取り扱い
第9回	機械学習の方法
第10回	機械学習における様々なデータ
第11回	データの特性：確率変数と分布関数、代表値、散布度
第12回	データの特性：因果関係、相関、母集団と標本
第13回	データの可視化：様々なグラフ、可視化の重要性、適切な可視化
第14回	データの集計・解析：単回帰、最小二乗法
第15回	まとめと最終課題のプレゼンテーション

事前学修	2	各回の授業計画で挙げられたキーワードについて、インターネットを用いて検索を行い、事前に用語を調査しておくこと。そのうえで、不明瞭であると感じた語句や内容と、理解できたものとを明確に区別しておくこと。
事後学修	2	事前学習で不明瞭であった点が授業で解消できたかを確認し、出ていない場合はさらに受講生同士のコミュニケーションやインターネットによる検索等で解消すること。質問は授業時間中に直接担当教員に質問し、問題解消に至ることが望ましい。オフィスアワーの活用も推奨する。
フィードバックの方法	頻出の質問についてはQA掲示板等により回答を行う。	

成績評価方法	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	定期試験は実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100%	グループワークによる相互評価の総点による評価(50%)と、最終課題の相互評価(50%)を総合して評価する
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
指定なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	「できる やさしく学ぶExcel統計入門」羽山博, できるシリーズ編集部 著, インプレス ISBN-13: 978-4844337317			

2022 年度 履修要覧

# 教育学部

## 四年制学部共通事項

羽島キャンパス

教育学部

外国語学部

看護学部

岐阜キャンパス

経済情報学部

**教育学部**

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

# 教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示し、●・■・○の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。

- ：週一回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目
- ：週二回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目
- ：週一回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目
- ☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目（授業日は別途連絡します）

[注意]

前後期両方に●が付いている科目は時間割表で指定されたクラスで受講してください。また、やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。また開講しない場合もありますので必ずその年度の時間割表を確認してください。

## 【建学の精神に関する科目】

開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	2	2		●				
	宗教学Ⅱ	2	2		●				
最低修得単位			4	0					
			4単位						

## 【教養基礎科目 (Yawaragi Basis)】

YB科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●					
		基礎セミナーⅡ	演	1	1		●					
		基礎セミナーⅢ	演	1	1			●				
		スポーツⅠ	実	1	1		●					
		スポーツⅡ	実	1	1			●				
	人文科学・社会学	心理学概論	講	2				●	●			
		歴史学	講	2				●	●			
		日本国憲法	講	2	2			●	●			
		キャリアプラン	講	2				●	●			
		ICT基礎	演	2	2			●				
共に拓く	基礎力	データサイエンス入門	講	2	2		●					
		データサイエンス基礎	演	1				●				
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	演	1	1			●				
		英語コミュニケーションⅡ	演	1	1				●			
		英語コミュニケーションⅢ	演	1					●			
		英語コミュニケーションⅣ	演	1						●		
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1				●				
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1					●			
		ドイツ語Ⅰ	演	1					●			
		ドイツ語Ⅱ	演	1						●		
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1				●				
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1					●			
		フランス語Ⅰ	演	1					●			
		フランス語Ⅱ	演	1						●		
		中国語コミュニケーションⅠ	演	1				●				
	中国語コミュニケーションⅡ	演	1					●				
	中国語Ⅰ	演	1					●				
	中国語Ⅱ	演	1						●			
	ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1				●					
	ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1					●				
	韓国語コミュニケーションⅠ	演	1				●					
	韓国語コミュニケーションⅡ	演	1					●				
	人文科学	映画学	講	2				●	●			
		日本文化論	講	2				●	●			
	社会科学	異文化論	講	2				●	●			
芸術論		演	1				●	●				
共に生きる	社会科学	ジェンダー論	講	2			●	●				
		哲学	講	2			●	●				
	自然科学	経済学	講	2				●	●			
		現代環境科学	講	2				●	●			
		数学	講	2				●	●			
		天文学	講	2				●	●			
		複合領域	岐阜学	講	2				●	●		
			災害と危機管理	講	2				●	●		
		共に支え合う	社会学	家族と社会保障	講	2			●	●		
				レクリエーション	講	2			●	●		
複合領域	食生活論		演	1			●	●				
	健康科学		講	2			●	●				
	健康科学概論	講	2				●					
最低修得単位					13	3						
					16単位							

これらの科目については指定されたクラスで受講すること。

「健康科学概論」は保育専修の履修を優先する。

2022年度 履修要覧

# 外国語学部

## 四年制学部共通事項

羽島キャンパス

教育学部

外国語学部

看護学部

岐阜キャンパス

経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

# 教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示し、●・■・○・☆の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。

●：週1回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目

○：週2回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目

■：週1回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目

☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目（授業日は別途連絡します）

[注意]

やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。

また開講しない場合もありますので必ずその年度の時間割表を確認してください。

## 建学の精神に関する科目

開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	2	2		●				
	宗教学Ⅱ	2	2			●			
最低修得単位			4	0					
			4単位						

## 教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
					必修	選択	1	2	3	4	
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●				
		基礎セミナーⅡ	演	1	1			●			
		スポーツⅠ	実	1	1		●				
		スポーツⅡ	実	1	1			●			
	人文科学	心理学概論	講	2			●	●			
		歴史学	講	2			●	●			
社会科学	日本国憲法	講	2			●	●				
	キャリアプラン	講	2			●	●				
共に拓く	基礎力	ICT基礎	演	2	2						
		データサイエンス入門	講	2	2		●				
		データサイエンス基礎	演	1				●			
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	演	1							
		英語コミュニケーションⅡ	演	1							
		英語コミュニケーションⅢ	演	1							
		英語コミュニケーションⅣ	演	1							
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1			●				
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1				●			
		ドイツ語Ⅰ	演	1					●		
		ドイツ語Ⅱ	演	1						●	
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1			●				
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1				●			
		フランス語Ⅰ	演	1					●		
	フランス語Ⅱ	演	1						●		
	中国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
	中国語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
	中国語Ⅰ	演	1					●			
	中国語Ⅱ	演	1						●		
	ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
	ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
	韓国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
	韓国語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
	人文科学	映画学	講	2			●	●			
社会科学	日本文化論	講	2			●	●				
社会科学	異文化論	講	2			●	●				
複合領域	芸術論	演	1			●	●				
共に生きる	人文科学	ジェンダー論	講	2			●	●			
	社会科学	哲学	講	2			●	●			
	社会科学	経済学	講	2			●	●			
	自然科学	現代環境科学	講	2			●	●			
	自然科学	数学	講	2			●	●			
	自然科学	天文学	講	2			●	●			
複合領域	岐阜学	講	2			●	●				
共に支え合う	社会科学	災害と危機管理	講	2			●	●			
	社会科学	家族と社会保障	講	2			●	●			
	社会科学	レクリエーション	講	2			●	●			
	複合領域	食生活論	演	1			●	●			
		健康科学	講	2			●	●			
		健康科学概論	講	2			●	●			
最低修得単位					10	8					
					18単位						

2022年度 履修要覧

# 経済情報学部

## 四年制学部共通事項

羽島キャンパス

教育学部

外国語学部

看護学部

岐阜キャンパス

経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

# 教育課程

- (1) 開講年次欄 1・2・3・4 は学年を示し、●■☆○の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。  
 ●：週1回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目。  
 ■：週1回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目  
 ☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目  
 ○：再履修者を対象とした開講期を示す。
- (2) 講義区分欄の『講』は講義、『演』は演習、『実』は実技・実習科目を表します。  
 (3) 各表の備考欄に留意してください。  
 (4) やむを得ない事情により開講期を変更する場合や、非開講となる場合があります。  
 必ずその年度の授業時間割表（履修の手引き）を確認してください。

## 建学の精神に関する科目

開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	必修 宗教学Ⅰ	2	2		●				
	必修 宗教学Ⅱ	2	2		●				
最低修得単位			4						
			4単位						

## 教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB 科目群	学則 区分	開講授業科目	講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力 必修	基礎セミナーⅠ	演	1	1	●	○					○は再履修
		基礎セミナーⅡ	演	1	1		●	○				○は再履修
		スポーツⅠ	実	1	1	●						
		スポーツⅡ	実	1	1		●					
共に拓く	人文科学 選択必修	心理学Ⅰ	講	2		●						
		心理学Ⅱ	講	2		●						
		歴史学Ⅰ	講	2		●						
		歴史学Ⅱ	講	2		●						
		日本国憲法	講	2		●						
		データサイエンス入門	講	2	2	●						
		データサイエンス基礎	演	1			●					
		英語Ⅰ	演	1	1	●						
		英語Ⅱ	演	1	1		●					
		英語Ⅲ	演	1			●					
共に拓く	言葉とコミュニケーション 必修	英語Ⅳ	演	1			●					外国語科目の選択必修2単位は、英語Ⅲ・Ⅳ、英語Ⅴ・Ⅵ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱから選択し履修すること。
		英語Ⅴ	演	1			●					
		英語Ⅵ	演	1				●				
		ドイツ語Ⅰ	演	1			●					
		ドイツ語Ⅱ	演	1				●				
		フランス語Ⅰ	演	1			●					
		フランス語Ⅱ	演	1				●				
		中国語Ⅰ	演	1			●					
		中国語Ⅱ	演	1				●				
		英語コミュニケーションⅠ	演	1		●						
共に拓く	社会科学 選択必修	英語コミュニケーションⅡ	演	1			●					
		英語実務	演	2		●						
		外国文化事情AⅠ	講	2		●						
		外国文化事情AⅡ	講	2		●						
		外国文化事情AⅢ	講	2		●						
		外国文化事情AⅣ	講	2		●						
		外国文化事情BⅠ	講	2		●						
		外国文化事情BⅡ	講	2		●						
		外国文化事情BⅢ	講	2		●						
		外国文化事情BⅣ	講	2		●						
共に生きる	人文科学	文学Ⅰ	講	2		●						
		文学Ⅱ	講	2			●					
	自然科学	地理Ⅰ	講	2		●						
		地理Ⅱ	講	2		●						
		数学	講	2		●						
		数学活用	講	2			●					
社会科	統計入門	講	2			●						
	法学	講	2		●							
最低修得単位					10	8						
					18単位							



2022年度 履修要覧

# 看護学部

## 四年制学部共通事項

羽島キャンパス

教育学部

外国語学部

看護学部

岐阜キャンパス

経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

# 教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示します。

- ：週一回開講し、1セメスター（半年）で完結する科目
- ：週一回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目
- ・■の右の数字は、授業時間数を表します。

[注意]

やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。

また、開講しない場合もありますので、必ずその年度の時間割表を確認してください。

## 建学の精神に関する科目

学則 区分	開講授業科目	講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
				必修	選択	1	2	3	4		
建学の精神に 関する科目	宗教学Ⅰ	講	2	2		●30					
	宗教学Ⅱ	講	2	2		●30					
最低修得単位				4	0						
				4単位							

## 教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB 科目群	学則 区分	開講授業科目	講義 区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●30					
		基礎セミナーⅡ	演	1	1			●30				
		スポーツⅠ	実	1	1		●30					
	人文科学	スポーツⅡ	実	1	1		●30					
		心理学概論	講	2			●30	●30	●30	●30		
		歴史学	講	2			●30	●30	●30	●30		
社会科学	日本国憲法	講	2			●30	●30	●30	●30			
	キャリアプラン	講	2			●30	●30	●30	●30			
共に拓く	基礎力	ICT基礎	演	2	2		●30					
		データサイエンス入門	講	2	2		●30					
	データサイエンス基礎	演	1				●30					
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ	演	1	1		●30					
		英語コミュニケーションⅡ	演	1	1		●30					
		英語コミュニケーションⅢ	演	1				●30				
		英語コミュニケーションⅣ	演	1					●30			
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1			●30					
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1			●30					
		ドイツ語Ⅰ	演	1				●30				
		ドイツ語Ⅱ	演	1					●30			
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1			●30					
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1			●30					
		フランス語Ⅰ	演	1				●30				
		フランス語Ⅱ	演	1					●30			
		中国語コミュニケーションⅠ	演	1			●30					
		中国語コミュニケーションⅡ	演	1			●30					
		中国語Ⅰ	演	1				●30				
		中国語Ⅱ	演	1					●30			
		ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1			●30					
		ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1			●30					
	韓国語コミュニケーションⅠ	演	1			●30						
	韓国語コミュニケーションⅡ	演	1			●30						
	人文科学	映画学	講	2			●30	●30	●30	●30		
		日本文化論	講	2			●30	●30	●30	●30		
		異文化論	講	2			●30	●30	●30	●30		
	社会科学	芸術論	演	1			●30	●30	●30	●30		
ジェンダー論		講	2			●30	●30	●30	●30			
社会科学	哲学	講	2			●30	●30	●30	●30			
	経済学	講	2			●30	●30	●30	●30			
自然科学	現代環境科学	講	2			●30	●30	●30	●30			
	天文学	講	2			●30	●30	●30	●30			
	数学	講	2			●30	●30	●30	●30			
複合領域	岐阜学	講	2			●30	●30	●30	●30			
	災害と危機管理	講	2			●30	●30	●30	●30			
社会科学	家族と社会保障	講	2			●30	●30	●30	●30			
	レクリエーション	講	2			●30	●30	●30	●30			
複合領域	食生活論	演	1			●30	●30	●30	●30			
	健康科学	講	2			●30	●30	●30	●30			
	健康科学概論	講	2			●30	●30	●30	●30			
最低修得単位					10	5					これらの 科目は、 指定され たクラス で受講す ること。	
					15単位							

# 数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム 取組概要



## 目的

「数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム」では、学生生活や卒業後の社会生活において、数理・データサイエンス・AIを道具として活用し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

## 学修成果

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

## 科目構成

### 全学部必修科目（2単位）

教育学部

外国語学部

経済情報学部

看護学部

### データサイエンス入門

現代社会のあらゆる分野で重要視されている、数理・データサイエンス、およびデータについての基礎的な事項について学ぶ。AIが社会実装されている実例をもとに、データサイエンスの是非や方法論についてグループディスカッションやPCでの実習など、アクティブラーニングを多用して習得する。

導入

基礎

心得

※修了要件：教養基礎科目『データサイエンス入門』（2単位）』計2単位を取得すること。

## プログラム内容

- 第4次産業革命やSociety5.0、データ駆動型社会など、現在起こっている社会の変化について、その歴史や背景について学び、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について学ぶ。
- 公開されている統計データなどを用いた演習を通してデータの加工や解析方法について学び、産業界におけるデータの利活用事例から、データの利活用が日常生活や社会の課題を解決するツールとなることを学ぶ。
- データの相関、偽相関などのデータの特性について学ぶとともに、回帰や分類などのデータ分析手法について学ぶ。様々なデータの可視化方法について学び、効果的なデータの利用方法を習得する。
- データ活用の負の側面や、世界で策定が進められているデータ保護規則、データ活用で考慮すべき倫理的・社会的課題について学び、データ利用の際の留意事項について学ぶ。